

大 学 日 语

(第4册)

王廷凯 编

四川大学出版社

丛 书 名:大学日语教材系列

书 名:大学日语(第4册)

作 者:王廷凯

出 版 社:四川大学出版社

出版日期:2005年12月

I S B N:7-5614-3014-0/H36

定 价:24.00元

前 言

本书的编写目的，是想为我国高等院校文科专业提供一套内容新颖、适用性较强的公共外语教材，或作为外语院校的第二外语教材。在语法，句型及练习系统的编写方面兼顾了自学者的需要和各种考试的要求。

全书共分四册。每学期学习一册，每周按 4-6 学时安排。语音部分一般安排三周学完。为方便自学读者需要和适应各种考试的要求，我们还分别编写了《大学日语学习参考（第 1~2 册）》和《大学日语学习参考（第 3~4 册）》两本学习参考书。

本书课文全部选自日本原文作品。其中第 1、2 册课文以日本早稻田大学语学研究所编的《日语教科书》（改订版）为蓝本。第 3、4 册的课文也都取自日本原著。根据我国普通高等院校文科专业和外语院校学生的特点以及自学考试和日语等级考试的要求，我们深入浅出地编写了课文注释，语法讲解，句型说明和练习系统。

本书的第 1、2 册的特点是以日常生活为题材，以掌握基础词汇和基础语法知识为目标。课文易读，采用敬语体，口语性强，便于学习、掌握和运用。第 3、4 册是第 1、2 册的继续和深化。第 3 册在第 1、2 册的基础上侧重于语法，词汇，句型的巩固和扩充以及提高阅读理解能力。第 4 册则侧重于综合运用能力的培养和全面提高语言运用能力。第 3、4 册也可单独作为阅读教材使用。

本书经过修改后，语法和句型的讲解比原书更科学和合理。改进最多的是练习系统，增加了多种练习形式和扩大了练习量，练习内容更加有助于掌握课文和提高语言的实用能力，尤其是加强了适应各种考试的针对性。

第 1、2 册书各 20 课，第 3、4 册书各 16 课。各课内容由课文，生词，课文注释，语法，句型和练习系统组成。为了便于自学和适应当前日语等级考试，我们还新编写了《大学日语学习参考（第 1~2 册）》和《大学日语学习参考（第 3~4 册）》两书以及一本《大学日语听力训练及等级考题》（包括文字材料和听力录音光盘）。

全书课文共有单词约 3300 个。其中 1、2 两册约有 1400 个，3、4 两册约有 1900 个。考虑到初学阶段的实际情况，我们在 1、2 册书中单词后面用数字标注有读音音调标记。这是根据《新明解国语辞典》（日本三省堂出版）所标注，可供初学者参考。

单词后面的略语符号为：

[名]	名词
[代]	代词
[数]	数词
[形]	形容词
[形动]	形容动词
[副]	副词
[接]	接续词
[连]	连体词
[他]	他动词
[自]	自动词
[五]	五段动词
[上一]	上一段动词
[下一]	下一段动词
[サ]	サ变动词
[力]	力变动词
[组]	词组
[接头]	接头词
[接尾]	接尾词

本套《大学日本語》由王廷凯主编。第1册由杨霞斐（语音部分由晋学新编写）；第2册由何午；第3册由毛青兰；第4册由晋学新编写。《大学日本語学习参考（第1~2册）》由何午（第1、2、5、6单元），杨霞斐（第3、4单元）编写；《大学日本語学习参考（第3~4册）》由毛青兰（第3册部分）、晋学新（第4册部分）编写；《大学日本語听力训练及等级考题》由晋学新编写。语音部分的录音和课文录音由晋学新选编。《大学日本語》第1、2册课文录音选自日本原著录音磁带，语音部分录音和第3、4册课文录音由日本语言专家兼光英子录制，特此表示衷心感谢。

参加第一版编写工作的臧俐、曾庆珠、姚继中三位老师由于工作变动，没有参加这次编写工作。对他们过去所做的工作表示感谢。

这次编写工作得到四川大学出版社外语编辑室黄新路老师的大力支持和热心指导，在此表示衷心的感谢。

由于编者水平有限，时间仓促，缺点和错误在所难免，欢迎广大读者批评指正。

四川外语学院日语教材编写组
2004年10月

《大学日本语》再版说明

《大学日本语》自 1994 年由原成都科技大学出版社出版以来，受到广大学习日语读者的关注，曾多次印刷。随着形势的不断发展，原书内容有些方面已不能适应当前形势的需要。为满足广大读者的要求和日语学习的需要，我们这次在保留原书的语言框架和语法体系的基础上进行了较大的改动，现由四川大学出版社（原四川大学出版社和成都科技大学出版社合并而成）再次修订出版。

新版第 1、2 册保留原书课文，第 3、4 册课文做了少量调整。现在全书的语法、句型的讲解与叙述比原书更科学和合理。在练习系统方面，我们增加了多种练习形式，练习量也比原书增加了许多，使其针对性更强，更加切合实际。新的改动有助于学习、掌握课文和发展语言应用能力以及适应当前各种考试的实际情况。

为了便于自学和适应当前日语等级考试的需要，我们还新编写了《大学日本语学习参考（第 1~2 册）》和《大学日本语学习参考（第 3~4 册）》。前一本书包括 1、2 册语法总结，1、2 册课文练习和单元练习答案以及综合练习题等。后一本书包括课文译文，课文练习答案和单元练习答案以及综合练习题等。另外，在两本学习参考书中各附有光盘 1 张。光盘内容分别为各册课文的录音(包括日语语音部分)，录音均由日本语言专家录制。

为了配合和适应日语听力等级考试的要求，本系列丛书我们新增编了一本《大学日本语听力训练及等级考题》，包括文字材料和听力录音（附光盘）。此书可供参加日本语能力考试和日语等级考试以及日语自考的考生考前进行强化培训。

希望修订再版后的《大学日本语》能满足读者的需要。对于书中的不足之处也请指出，以便今后不断完善。

编者

2005.1

目 録

第1課 歌舞伎 1

- 一、 注釈
- 二、 文法と文型
 - 1. 助詞「から」用法小结
 - 2. せっかく
 - 3. かえって
 - 4. とかく～
 - 5. どうてい (とても) ～ない
 - 6. ～によって (は)
 - 7. ～ようになる

練習 1

第2課 火の発見と科学の芽生え 10

- 一、 注釈
- 二、 文法と文型
 - 1. ～と言ってよいくらい
 - 2. 体言において
 - 3. ～といえば
 - 4. ～ではないか
 - 5. 动词过去式 (た) + 以上
 - 6. ～と同時に～

練習 2

第3課 季節風と日本人 19

- 一、 注釈
- 二、 文法と文型
 - 1. 名词+は+同一名词+で…
 - 2. ～によるところが大きい
 - 3. ～ということになれば
 - 4. ～にしても

4. よくも～ものである

練習 6

第7課 笑いと批評

63

- 一、 注釈
- 二、 文法と文型
 1. 动词连体形+上で～
 2. めったに～ない
 3. 体言+にこだわる
 4. 何という～だろう
 5. 期せずして

練習 7

第8課 日本の仏教

72

- 一、 注釈
- 二、 文法と文型
 1. ～ように見える
 2. いったい～だろう (か)
 3. ～なり～なり (して)
 4. ～ようがない

練習 8

第9課 「家内」の意味

81

- 一、 注釈
- 二、 文法と文型
 1. 并列助词「なり」
 2. 副词「なんとなく」
 3. 副词「より」
 4. 用言未然形+んばかり

練習 9

第10課 近代的 90

- 一、 注釈
- 二、 文法と文型
 - 1. 一方で (は) ～他方で (は)
 - 2. 体言いかん (で)
 - 3. ～とあって (は) , ～とあって (は)
 - 4. 体言における体言
 - 5. ～に違いない

練習 10

中間テスト 2 99

第11課 父親の存在 103

- 一、 注釈
- 二、 文法と文型
 - 1. 「つもり」的用法总结
 - 2. 「いかに～か」
 - 3. 「次第」的用法总结

練習 11

第12課 自然と人間 111

- 一、 注釈
- 二、 文法と文型
 - 1. 「～に対して～」的总结
 - 2. 体言において～
 - 3. 形式体言「はず」的用法总结
 - 4. とかく

練習 12

第13課 猫の裁判 121

- 一、 注釈
- 二、 文法と文型

1. ～にきまる
2. ～ないとられない
3. ～と見える
4. どうも～らしい
5. ～ないでいる

練習 13

第14課 移動の時代 131

- 一、 注釈
- 二、 文法と文型
 1. まるで～ようだ
 2. ～は～からきている
 3. ～ということだ
 4. ～ざるをえない

練習 14

第15課 障子 140

- 一、 注釈
- 二、 文法と文型
 1. ～にかぎらない
 2. ～にいたっては
 3. ～といった～
 4. ～ことなく～
 5. 否定推量助動詞「まい」

練習 15

中間テスト3 152

第16課 「小言幸兵衛」 158

- 一、 注釈
- 二、 文法と文型
 1. 慣用句「手に負えない」

2. 慣用句「耳にタコができる」
3. 慣用句「棚に上げる」
4. 慣用句「陰口を叩く」
5. 副詞「さながら」
6. 句型「一向に～ない」

練習 16

総合テスト	168
-------	-----

第4册总词汇表	173
---------	-----

第 1 課 歌舞伎

日本に来て歌舞伎を見た西洋の演劇の演出家や、舞台装置の専門家は、だれでも、歌舞伎の回り舞台や、花道に驚きました。そして、西洋でも、この歌舞伎の舞台をまねる人たちが出てきました。

舞台は、ある場面から次の場面へ移るときに、一度、幕を降ろして、しばらく休んでから、再び幕を上げるのが普通ですが、それは場合によっては、せっかくの感興をそぐ結果になります。そこで、瞬間的に、ある場面から次の場面に移す装置として、回り舞台が発明されました。ちょっと考えると、何でもないことのようにですが、このすばらしい思いつきは、立派な発明といえるでしょう。

回り舞台もそうですが、花道の発明は、演劇の効果を上げるためには最も素晴らしいものと思われます。見物席の間をぬって左右に二本の道が通っているのです。ここでしぐさをする役者は、見物人のまっただ中で芝居をすることになります。それで、ここでは、見物人と役者とが一体に溶け込み、役者と見物人が一緒になった気持ちに誘われます。また、舞台の奥行きというものは限られていますので、とかく平面的な感じを与えますが、花道の工夫によって、立体的な感じを出すことに成功しています。

さて、舞台装置のお話が先になってしまいましたが、歌舞伎は慶長年間（1596～1614）に流行した「お国歌舞伎」というものから始まりました。お国というのは女の人で、出雲大社の社前で演ずる歌と舞いの名手でした。それが徳川時代になると、歌舞伎は大阪や江戸の町人に愛好されるようになったのです。

歌舞伎は、最初のうちは、小唄に合わせて、太鼓・鼓・笛を伴奏にしておりましたが、間もなく三味線が主な伴奏楽器になったのです。そして、近松門左衛門のような著名な脚本作者も歌舞伎の脚本に手をつけるようになり、西鶴は自ら脚本は書きませんでした。その小説は、歌舞伎の脚本に大きな影響を与えました。

皆さんのうちで、歌舞伎をご覧になった方は、どうして歌舞伎には女優が出ないで、男性が女の役を演ずるのだろうか、と不思議に思われたでしょう。それは、今申しましたように、歌舞伎はもともと女が舞ったものですし、男も女も両方とも出ていたものです。ところが徳川幕府は、当時の堅苦しい儒教という中国の思想から、女の役者の出演を禁止してしまったので、それ以後、止むを得ず役者はすべて男ということになり、女に扮装する、いわゆる女形、おやまの演技が極度に洗練されて、かえって女優ではとうていまねができないほどの発達を遂げたのです。

歌舞伎は、町人の芸術として、江戸や大阪で商人の支持を受けて発達したもので、役者などの芝居関係の人たちは生活に恵まれ、衣装や、舞台装置や道具なども豪華なものになり、驚くほどきらびやかな演劇に発達しました。こういう意味で、歌舞

伎は日本の市民文化が生んだ世界的芸術として、誇ってよいものと思われます。

新しい単語

えんげき (演劇)	[名]	演劇
まわりぶたい (回り舞台)	[名]	旋转舞台
はなみち (はなみち)	[名]	花道 (歌舞伎演员由舞台一侧通过观众席上下舞台的专门通道)
まねる (真似る)	[他下一]	模仿, 仿效
せっかく	[副]	特意地, 难得地
かんきょう (感興)	[名]	兴致, 兴趣
そぐ (削ぐ)	[他五]	削减, 减少, 削尖
おもいつき (思い付き)	[名]	想起, 打算
ぬう (縫う)	[他五]	缝, 刺绣, 穿过
しぐさ (仕種・仕草)	[名]	作法, 行为
やくしゃ (役者)	[名]	演员
まっただなか (真っ直中)	[名]	正当中, 正中央
おくゆき (奥行き)	[名]	(房间, 剧场的) 进深, 纵深
ちょうにん (町人)	[名]	(江户时代的) 商人, 手艺人
こうた (小唄)	[名]	小曲, 小调, 短歌
たいこ (太鼓)	[名]	鼓
つづみ (鼓)	[名]	鼓, 日本式小鼓
ふえ (笛)	[名]	笛子, 横笛
ばんそう (伴奏)	[名, 自サ]	伴奏
しゃみせん (三味線)	[名]	三味线 (日本的三弦琴)
がっき (楽器)	[名]	乐器
ぶんごう (文豪)	[名]	文豪
てをつける (手をつける)	[组]	着手, 开始用
じょゆう (女優)	[名]	女演员
はいゆう (俳優)	[名]	(剧, 电影) 演员
まう (舞う)	[自五]	舞蹈, 飘, 飞舞
ばくふ (幕府)	[名]	幕府 (将军的居所; 日本镰仓, 室町, 江户时代执行武士政治统治的封建政权机构)
かたくるしい (堅苦しい)	[形]	拘束
ふんそう (扮装)	[名, 自サ]	(演剧) 化妆, 装扮

おんながた (女形)	[名]	扮演女角色的男演员, 旦角
おやま (女形)	[名]	与「おんながた」同义
せんれん (洗練)	[名,他サ]	洗练, 精练
めぐまれる (恵まれる)	[自下一]	(蒙受) 幸运, 幸福
ごうか (豪華)	[名]	豪华
きらびやか (煌びやか)	[形動]	灿烂, 华丽; 灿烂夺目
うむ (生む)	[他五]	生, 产生
ほこる (誇る)	[自五]	自豪, 夸耀

一、注釈

1. 感興をそぐ / 扫兴。
2. 見物の間をぬって左右に二本の道が通っているのです。ここでしぐさをする役者は、見物人のまっただ中で芝居をすることになります。 / 由于通过观众席之间左右有两条通道, 这样表演的演员就可以在观众中间演戏了。

「连体形+ことになる」是惯用型, 表示事物发展的趋势或结果。常译成“就会……”“就成了……”。如:

- 午後の試合に出ないと負けたことになる。 / 如果不参加下午的比赛, 就等于输了。

3. お国歌舞伎

也写作「阿国歌舞伎」。是指江戸初期庆长年间出云大社(在岛根县)的一位神子(在神社中服务, 从事奏乐, 祈祷等活动的未婚女子)叫阿国, 在京都首先跳的舞蹈剧。因当时受到好评, 从此便开始有了歌舞伎。

4. それは、今申しましたように、歌舞伎はもともと女が舞ったものですし、男も女も両方とも出ていたものです。 / 正如我刚才所讲的, 歌舞伎本来是女性舞蹈, 男女共演的。句中「申す」是「言う」的自谦语, 表示说话人对于自己的动作的谦虚。

二、文法と文型

1. 助词「から」用法小结

助词「から」的用法很多, 最常用的有(1)表示时间和空间的起点; (2)动作的起点; (3)一个动作向另一个动作移动; (4)原因, 理由; (5)材料, 等等。例:

- ある場面から次の場面へ移る。(动作的起点)
- しばらく休んでから, 再び幕を上げる。(一个动作向另一个动作移动)
- 徳川幕府は当時の…中国の思想から, 女の役者の演出を禁止してしまった。(原因, 理由)
- 歌舞伎は「お国歌舞伎」というものから始まりました。(时间的起点)
- 紙は木から造られています。(材料)

2. せっかく

「せっかく」既可作为名词使用，也可作为副词使用。意思是“特意；煞费苦心”“好好地；拼命地”。例：

- せっかくの努力が水泡に帰する。 / 煞费苦心的努力归于泡影。
- せっかくの休日も雨でつぶれた。 / 好不容易盼到的假日让雨给糟蹋了。
- せっかく予習したのに、試験が中止になった。 / 专门预习了，却又不考了。

3. かえって

「かえって」是副词，表示结果出乎意外，一般多用于消极不良结果，如果是良好结果，表示出的也是反常或偶然的语气。可译为：“相反地”“反而”等。例：

- 薬を服用するのをやめたら、かえって体の調子が良くなった。 / 一停止服药，身体状况反而好了。
- 男が女に扮装する女形の演技が洗練されて、かえって女優では真似ができないほどの発達を遂げた。 / 男人扮演妇女角色已达到炉火纯青的程度，甚至连女演员都无法摹仿。
- 気温がいくら高くても、湿度が低く空気が乾燥していれば、かえって涼しく感ずるそうです。 / 听说不论气温有多高，只要湿度低空气干燥，反而会感到凉爽。

4. とかく～

「とかく」是副词，表示一种自然趋向，有时与「やすい」「(用言連用形) + がち」等接尾词呼应使用，表示易于做什么，意思是“动不动就……”，“总是……”。可以译为“总是……”，“不知不觉之间……”，“往往……”等。例：

- 学生は、試験がないと、とかく怠けがちになるものだ。 / 学生一没有考试，就容易变得懒惰起来。
- 寒いときは、とかく風邪を引きやすい。 / 天冷的时候总容易患感冒。
- 舞台の奥行きというものは限られていますので、とかく平面的な感じを与えます。 / 由于舞台的纵深受到限制，所以总有一种平面的感觉。
- 次の場面に移るときに、一度幕を降ろして、しばらく休んでから再び幕を上げると、とかくせっかくの感興をそぐ結果になります。 / 在演下一幕时，如果将幕布降下休息一会儿再拉开，便常常会减弱对剧情的浓厚兴趣。
- 自然界の化学反応はとかく看過されがちである。 / 自然界的化学反应往往被忽略过去。

5. とうてい(とても)～ない

「とうてい」和「とても」都是与否定谓语呼应的副词。「とうてい」比「とても」语气强烈，表示不管怎么努力也达不到预期的目的。可以译为“无论如何也……；怎么也不……”等。例：

- 女形の演技は、女優ではとうてい真似できない。 / 把女性角色表演得维妙维肖，是女演员无论如何也忘尘莫及的。

- インドのような暑いところには、とうてい住めない。 / 像印度那样酷热的地方，无论如何也无法居住。
- 西洋の演出家たちは、回り舞台や花道のようなものは、とても思いつかなかった。 / 欧美戏剧表演艺术家们对于旋转舞台，或演员上下场的花道之类的设备，怎么也想象不出来。

6. ～によって (は)

体言によって (は) ～こともある・ことになる。该句型表示对应关系，不同的情况有不同的结果。可以译为“由于……也……；有的……有的……”等。例：

- 日によって、気持ちが良いこともあるし、悪いこともある。 / 有时心情好，有时心情不好。
- 値打ちのあるものでも、相手によっては、その値打ちがわからない。 / 即使有价值的东西，有的人也识别不出来。
- それは場合によっては、せっかくの感興をそぐ結果になります。 / 有时会减弱浓厚的兴致。

7. ～ようになる

「动词连体形或动词可能态+ようになる」表示通过逐渐变化达到了某种状态。可以译为“已经……；可以……；开始……”等。

- 歌舞伎は大阪や江戸の町人に愛好されるようになった。 / 歌舞伎开始受到大阪和江戸的商人们的喜爱。
- 科学の進歩によって、とうとう月にまで行けるようになった。 / 由于科学的进步，人类终于可以到月球上去了。
- 何遍も読んでいるうちに、だんだん読めるようになった。 / 读了好几遍，渐渐读懂了。

練 習 1

一、次の単語の読み方を平仮名で書きなさい。

町	町人	見舞い	舞台	流行
流れる	奥行き	行う	洗練	太鼓
感興	大名	幕	幕府	女形

二、次の単語を漢字で書きなさい。

やくしゃ	じょゆう	えんげき	はなみち	けんぶつ
はいゆう	いしょう	しばい	ふんそう	ごうか

三、次の文の () に入る最も適当な言葉を の中から選んで、その記号を書きなさい。同じ言葉は一度しか使えません。

1. a. に対して b. にとって c. について d. として

先日、父の教え子から学校での父（①）聞かされ、驚いた。父は教師（②）大変厳しい人だったようだ。しかし、私は大変優しい父だった。父はわたし（③）決して厳しいことを言ったり、強く叱ったりしたことはなかった。わたし（④）父の思い出は一番大切なものだ。

2. a. につれて b. とともに c. を中心に d. に伴う

日本の祭りやそこで伝えられてきた伝統芸能も、時代（①）行われなくなってきた。そのような伝統芸能が減っていく（②）、伝統文化も失われてきている。そのため、伝統的な文化を残そうという活動が、若者（③）各地で起こってきた。祭りの準備（④）時間と労力は大変であるが、町に活気が出てきたという。

四、次の文の（ ）に入る最も適切な言葉をA・B・C・Dの中から選んで、その記号を書きなさい。

- 西洋の演出家は、回り舞台や花道（ ）驚きました。
A を B に C で D と
- 見物席の間（ ）ぬって、左右に二本の道が通っています。
A を B で C へ D も
- 女優ではとうてい真似ができない（ ）の発達を遂げました。
A こと B もの C ほど D わけ
- 花道の発明は、演劇の効果を上げるためには最も（ ）ものと思われます。
A うまい B 明るい C 新しい D 素晴らしい
- 近松門左衛門のような文豪も歌舞伎の脚本に手を（ ）ようになりました。
A かける B つける C あげる D わける
- 彼は病気だったので、（ ）学校を休んだのでした。
A それで B それに C そこで D そして
- 思いがけない場面に出会った。（ ）私は思わず言葉を詰まらせた。
A それで B そうしたら C そうすると D そこで
- （ ）の旅行も雨ですっかりだめになってしまいました。
A せいぜい B わざわざ C たまに D せっかく
- 地震に（ ）被害は予想以上だった。
A よって B よれば C より D よる